



栄光園だより

第91号

2013年4月5日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話(23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話(21) 0505

児童養護のこれから

児童養護施設 施設長 江口 敏一

社会的養護の現状は、3月15日厚生労働省発表の資料によると、乳児院(乳児3000人、施設130か所、職員4088人)、養護施設(児童2万9399人、施設589か所、職員1万5575人)、里親(児童4295人、3292世帯)、他に情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設、自立援助ホームを加えると約4万7千人の子どもたちは保護者がいない・虐待されている等家庭環境上養護を必要としています。このような子どもたちを可能な限り家庭的な環境において安定した人間関係の下で育てることができるよう施設のケア単位の小規模化、里親やファミリーホームなどが推進されています。

栄光園は、この3年間に児童の定員を75名から50名、40名と縮小し、昨年のキャサリン・ウエスト・ムラカミ・マツモトホームに加え、今年の3月完成したオゴウホームで5軒の小規模グループケア体制が確立されました。それぞれのホームでは子どもたち6〜8名が生活し、心のケアを大切にしている固定した職員体制や充実した心理療の活用、子どもたちの自立に向けた日常生活支援のための親子生活訓練の活用などが、支援してくださる皆様のご協力で完成しました。早速、高校3年生の男児が、食事作りも含めた全く一人での生活

訓練を経てたくましく成長しこの春卒業していくことができたのは私どもにとっては大きな誇りであります。

本館1階のリフォームによりこの春完成したオゴウホームには、栄光園が地域小規模グループケアを行うための訓練ホームとしての思いを込めています。地域でごく普通の家庭が営むような家族の話し合いによる暖かな生活スタイル、養育担当が家計の切り盛りを行い毎日食事の準備の買い物をし、隣近所の皆様と地域や学校のことなどについても話し合い、子どもたちが成長して巣立ったのちごく普通の家庭形成が容易にできることを目指したいのです。

この体制を進めていくと地域の小規模ホーム数が増え、本体施設の機能としては養育困難な子どもたちへの対応などより専門性の高い機能が求められてきます。生活全般を担う養育の専門資格としては、国家資格の保育士に限らず社会福祉士や精神保健福祉士、管理栄養士の有資格者の積極的な活躍を期待することと併せて、有資格者の採用に限らず、在職中の職員にも資格取得の意欲が求められます。このことにより生活の質が高い里親支援や家庭のあるべき姿を提示することも最終的な目標の一つに加えることができると思っています。

今年度より、里親支援専門相談員や職業指導員の専門職を配置し、子どもの養育を通して地域社会がより良くなっていくことに貢献したいと切に願っています。



施設の小規模化と家庭的養護の推進

社会的養護が必要な児童を、可能な限り家庭的な環境において安定した人間関係の下で育てることができるよう、施設のケア単位の小規模化、里親やファミリーホームなどを推進

より家庭的な養育環境

児童養護施設

大舎 (20人以上)
中舎 (13~19人)
小舎 (12人以下)
1歳~18歳未満 (必要な場合0歳~20歳未満)
職員は施設長等のほか
就学児童5.5:1
3歳以上4:1
3歳未満2:1
589か所
定員34,252人
現員29,399人

小規模グループケア

(本園ユニットケア、グループホーム)
本体施設や地域で、小規模なグループで家庭的養護を行う
1グループ6~8人
(乳児院は4~6人)
職員1人+管理宿直を加算
24年度809か所
→26年度目標800か所達成済
(乳児院等を含む)

地域小規模児童養護施設(グループホーム)

本体施設の支援のもと地域の民間住宅などを活用して家庭的な養護を行う
定員6人
職員2人+非常勤1人+管理宿直
24年度243か所
→26年度目標300か所

小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)

養育者の住居で養育を行う家庭養護
定員5~6人
養育者及び補助者合わせて3人
24年度177か所
→26年度目標140か所達成済
→将来像1000か所

里親

家庭における養育を里親に委託する家庭養護
児童4人まで
登録里親数 8,726世帯
うち養育里親 7,001世帯
専門里親 602世帯
養子縁組里親 2,124世帯
親族里親 445世帯
委託里親数 3,292世帯
委託児童数 4,295人
→26年度目標
養育里親登録8,000世帯
専門里親登録 800世帯

乳児院

乳児(0歳)、必要な場合幼児(小学校就学前)
130か所
定員3,853人、現員3,000人

里親等委託率

里親+ファミリーホーム
= 養護+乳児+里親+ファミリーホーム
24年3月末 13.5%
→26年度目標 16%

→将来像は、本体施設、グループホーム、里親等を各概ね3分の1
児童養護施設の本体施設は、全て小規模グループケアに

児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)

養護施設等退所後、就職する児童等が共同生活を営む住居において自立支援
24年度99か所 → 26年度目標 160か所

※「26年度目標」は、子ども子育てビジョン

登録里親数、委託里親数、委託児童数は、平成24年3月末福祉行政報告例。施設数、定員、現員、小規模グループケア、地域小規模児童養護施設、ファミリーホーム、自立援助ホームの数は、平成24年10月1日家庭福祉課調べ。

児童養護施設

栄光園での 18年間の思い出

高校三年 Y・Y

僕は生後1カ月で、家庭の事情で栄光園の乳児院に預けられました。もちろんその時の記憶はありませんが、預けられた当日に最初に抱いてくれた担当として受け持ってくれたのが、今、養護施設で働いている財前姉さんです。2歳となつて財前姉さんと離れ、僕は養護施設にかかりました。小学校、中学校の時、職員に対して反抗もたくさんしましたが、乳児院にいた財前姉さんに、真剣に怒られ、真剣に話を聞いてくれました。養護施設に財



前姉さんが異動になり、担当にはなりませんでしたが、何かあれば、いつもかけつけてくれました。赤ちゃんの頃の僕を知っている人が園にいるだけで僕にとっては大きな支えでした。恥ずかしくて口では言えませんが、本当に大事にしてくれたと感謝の思いでいっぱいです。

18年間、栄光園での生活は、つらいことも多かったけど、楽しいこともたくさんありました。夏の野球の練習はとにかくつらかったです。また小学校の時は年上の先輩から命令されたりして、「なんで僕は家に帰れないのか」と何度も思いました。その思いを、職員の兄さんや姉さんによくぶつけて困らせることもありました。そんな時でも、兄さんや姉さんは、いつも僕の味方でいてくれました。本当に感謝しています。毎年行った、夏のキャンプでは、海で泳いだり、バーベキューをしたり、泊ったりしてとにかく僕の中の最高の思い出です。

中学生の頃は何に対しても投げやりで、勉強もせず、進路についても深く考えたこともありませんでしたが、高校生になり、学校の先生も真剣に進路や将来のことを考えてくれたおかげで就職を決めることができました。4月から社会人として出発します。18年間の栄光園での生活が終わり、正直、不安ばかりですが、栄光園で学んだことを思い出し、頑張ろうと思います。

栄光園は大切な場所でした。そしてこれからも。

乳児院

節分

保育士 後藤 晶子

1月後半より、子どもたちの「豆まき」の元気な歌声が乳児院中に響き渡っていました。2月3日の節分の日には、子どもたちはいつもより一段と大きな声で歌い、1年に一度の鬼退治に気合が入りました。保育者には鬼退治の仕方・退治をするときに使う魔法「鬼は外、福は内」を習い、準備はバツチリ!! しかし、鬼の登場に一同大パニック!! 大泣きする子や保育者の後ろに隠れ、様子を窺う子もいました。鬼が近づこうとすると、みんな「こわい」と口をそろえて、保育者から離れようとしませんでした。正義の味方のお兄さん(男性職員)が、「みんなも一緒にやっつけよう」と声をかけると、子どもたちは、勇気を振り絞り、



「鬼は外、福は内」と大きな声で魔法の声を唱えながら豆を投げました。鬼が「あいたたあ」と声を出し逃げ帰って行くと、子どもたちは口々に「こわかったね」と言い、安堵の表情を浮かべていました。怖がったり、泣いたり、勇気を振り絞ったりと、とても大変な1日でしたが、鬼を追い返した子どもたちの表情は達成感に満ち溢れていました。ちなみに、私が鬼でした。怖がらせてごめんなさい。

社会 体験

保育士 日吉 知美

3月7日。この日は、バスに乗り、電車も利用して、新しくなった大分駅まで出かけてきました。

日頃、あまりバスなどに乗る機会が少ない子どもたちは、絵本や、お散歩の途中で見かけていたバスを見ると、「バス!」と言い、嬉しそうに見ていました。乗ってみると、車と違うのを感じてか、引率の職員の腕をぎゅっと握りしめていました。そんな中でも、窓からの景色を見ると、様々なものが入り、嬉しそうに指さして職員に教えてくれたりしました。

電車に乗る時は、切符を買う所から体験しました。買った切符を「じぶんで!!」と言い、手に大事そうに持っていました。自動改札も、難なくこなしてご満悦の笑顔。ホームまで行くと、「でんしゃはあ?」と電車を探していると、スピードを落とすつも迫力あるソニックが来ました。いざ目の前で見ると、「こわい!」と言う子や、「き



た！でんしゃ！と指をさしてじっと見る子と様々な反応を見せてくれました。子どもたちの反応がとても可愛く、職員も一緒に乗り電車が間近で見れたことを喜んでいました。

電車の中では、自分が電車に乗っているのに「でんしゃどこ？」と、きよろきよろと探したり、周りの乗客に戸惑いながらも、車窓から見える海や町の風景をじっと見ていました。

バス、切符の購入、改札、電車。一日でたくさん初めての体験することができました。

そのおかげで、子ども達の新しい表情、成長した姿、意外な一面を見ることができ、引率した私たちのほうがとても思い出に残る一日になったように思います。

青山保育所

ドキドキしたけど 頑張った発表会

2月に発表会を行いました。「パパやママが見に来るんでな」と当日を楽しみに頑張ってきた子ども達ですが、いざ大きな舞台上立つと目の前には大勢のお客さんがいっぱいでも緊張していたようでした。中にはパパやママを見つけて思わず涙が出てしまった子どももいました。どの子ども最後まで頑張りました。運動会から4カ月、色々なことができようになり、さらに成長した子どもたちを見て、私たち保育士も胸が熱くなりました。

いつか大人になった時に何となくでも、大きな舞台になったなあと感じていてくれると嬉しいなと思いました。



参観日

2月にうさぎ組、ペンギん組、3月にぞう組・きりん組の保育参観を行いました。今回は6月だったので、お家の人から片時も離れなかつた子ども達も、今回は「見てね」と言わなければ、はりきって活動に参加していません。



ぞう組のお友達、4月から幼稚園や小学校へ行くお友達もいるので、そのことについての話をしたり、お家の方同士で情報交換したりしていたようです。また給食もお家の方と一緒に食べていただきましたが、食べるときの姿勢や食べる量など、家の様子と違うとお家の方も驚いていました。日頃保育所の様子はなかなか見ることができないので、少しでも子ども達の様子を見て頂けてよかったです。



ひなまつり会

ひなまつり会を行いました。玄関に雛段を飾り、クラスでもそれぞれの雛飾りを作りました。当日は、5歳児女兒が踊りを披露してくれ、ひなまつりに関するお話を聞きました。普段何気なく見ているものも一つ一つに意味があることを知り、目を丸くして聞いていました。家に帰って一つでもお話してくればと良いなと思います。その後はお楽しみ会の会食で、ちらし寿司をお腹いっぱい食べ、大満足の子どもたちでした。後日、雛人形を片付けた後のこと…。子どもたちが玄関にきて「お雛様がおらん！」「お家に帰ったんかなあ」と淋しそうにしていたのが印象的でした。この次はこのぼりかな？楽しみにしててね！



野口保育所

新しい年度が始まりました。新入園児も加わり、また賑やかな1年がスタートです。

今年度も毎日楽しく、子どもも保育士と一緒に成長出来るように過ごしていきたいと思います。

4月で7年目を迎えた野口保育所ですが、これからも職員一同身を引き締め、資質向上を目指し子ども達が安全で楽しい保育が出来るようにしていきたいと思えます。

今年度もよろしくお願い致します。さて、これからは、昨年度の子どもの様子をお知らせします。

まめまき



2月3日は節分の日！野口保育所でも体の中にいる鬼を追い払う為



にみんなで豆まきを行いました。

子ども達は、前々から鬼のお面や豆が入る枡を作ったり、節分のお話を聞いたり準備万端!! 鬼をやっつけるぞ!!と意気込んでいました。

当日は、5歳児と保育士による、節分の由来の劇を見た後、いざ鬼出現!! 真剣に豆を投げる子、泣いてしまう子、どこでもいらいから隠れたい子など：様々な様子がありました。保育士と一緒に「鬼は外!副は内!」と豆をなげ、みんなで歳の数だけ豆を食べたり、給食には恵方巻も食べて体の中にいる鬼を楽しく追い払いました。

ひなまつり会

3月3日のひな祭りにちなんで、ひな祭り会をしました。



全クラスでお雛様の歌を歌ったり、各クラス毎に作ったお雛様の製作を見たり、5歳児の女の子によるお雛様の曲に合わせて踊る舞を見て楽しみ、給食ではお雛ラUNCHを食べて春の訪れを感じました。小さなクラスの子も達も、優しく踊る姿を見て嬉しそうに見惚れていました。お雛様が終わった後は、4歳児と5

児でまた来年会おうね!と優しく大切に、お雛様のお片づけもしました。



お別れ遠足



新年度を迎える前に、1年間一緒に過ごしたお友達や保育士と一緒に小さいクラスは近くの公園にお散歩に行ったり、4歳・5歳児は卒園という事もあり大分空港までバスに乗って行ってきました。

歌いながら歩いて菜の花や、サラサラ流れる小川を見ながら4月に入った頃のまだまだ幼かった頃の子ども達を思い出し、1年間の成長に少し胸が熱くなった保育士達でした。4・5歳児は、バスに乗って大分空港を見学したり、大分農業文化公園で元気に遊びました。

天候は雨が降ったり、やんだりで残念でしたが、お友達や保育士とたくさんさんの思い出が出来た一日でした。



卒園式

先日、24年度の野口保育所の卒園式が行われました。今年は15名の子ども達が野口保育所を巣立って行きました。それぞれの子ども達が幼稚園や小学校にあがる期待と喜びを胸に元氣いっぱい卒園して行きました。子ども達がどの場所でも元氣に頑張ることを願って、応援したいと思います。

みんな、たくましく育ってね。



